

発行日  
2026年  
3月29日

今週のお祈り 復活前主日特禱

人類を深く愛し、救い主、み子イエス・キリストをこの世に遣わされた全能の神よ、み子はわたしたちと同じ肉体を取り、己を低くして死に至るまであなたに従われました。どうかわたしたちに恵みを与えて、み子の苦しみの模範に従わせ、またそのよみがえりにあずからせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

今週の聖書 マタイによる福音書 27章 26〜54節

26 そこで、ピラトはバラバを釈放し、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した。27 それから、総督の兵士たちは、イエスを総督官邸に連れて行き、部隊の全員をイエスの周りに集めた。28 そして、イエスの着ている物を剥ぎ取り、深紅の外套を着せ、29 茨で冠を編んで頭に載せ、右手に葦の棒を持たせて、その前にひざまずき、「ユダヤ人の王、万歳」と言いつて、侮辱した。30 また、唾を吐きかけ、葦の棒を取り上げて頭を叩いた。31 このようにイエスを侮辱したあげく、外套を脱がせて元の服を着せ、十字架につけるために引いて行つた。32 兵士たちは出て行くと、シモンという名前

のキレネ人に出会つたので、この人を徴用し、イエスの十字架を担がせた。33 そして、ゴルゴタという所、すなわち「されこうべの場所」に着くと、34 胆汁を混ぜたぶどう酒を飲ませようとしたが、イエスはなめただけで、飲むとされなかつた。35 彼らはイエスを十字架につけると、くじを引いてその衣を分け合い、36 そこに座つて見張りをしていた。37 イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王イエスである」と書いた罪状書きを掲げた。38 同時に、イエスと一緒に二人の強盗が、一人は右に、もう一人は左に、十字架につけられた。39 そこを通りかかった人々は、頭を振りながらイエスを罵つて、40 言つた。「神殿を壊し、三日で建て直す者、神の子なら、自分を救つてみる。そして十字架から降りて来い。」41

同じように、祭司長たちも律法学者たちや長老たちと一緒に、イエスを侮辱して言つた。42 「他人は救つたのに、自分は救えない。イスラエルの王だ。今すぐ十字架から降りるがいい。そうすれば、信じてやろう。」43 彼は神に頼つてきた。お望みならば、神が今、救つてくださるように。『私は神の子だ』と言つていたのである。44 一緒に十字架につけられた強盗たちも、同じようにイエスを罵つた。45 さて、昼の十二時から全地は暗くなり、三時に及んだ。46 三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバク

タニ。」これは、「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てにな



聖書からのメッセージ 執事 林 汶慶

イエスさまは、何も悪いことをしていないのに、捕らえられ、十字架につけられてしまった。とても苦しい中で、「どうしてわたしをお見捨てになったのか」と神さまに叫ばれた。それは、イエスさまが、私たちと同じように、悲しみや苦しみを本当に知っておられるということ。だから、私たちがつらいときや悲しいとき、イエスさまは遠くにいるのではなく、その思いを知って、いつもそばにいてくださる。

つたのですか」という意味である。47 そこに立つたいた何人かが、これを聞いて、「この人はエリヤを呼んでいる」と言つた。48 するとすぐ、そのうちの一人が走り寄り、海綿を取つて酢を含ませ、葦の棒に付けて、イエスに飲ませた。49 ほかの人々は、「待て、エリヤが彼を救いに来るかどうか、見てみよう」と言つた。50 しかし、イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた。51 その時、神殿の垂れ幕が上から下まで真つ二つに裂け、地震が起こり、岩が裂け、52 墓が開いて、眠りに就いていた多くの聖なる者たちの体が生き返つた。53 そして、イエスの復活の後、墓から出て来て、聖なる都に入り、多くの人に現れた。54 百人隊長と一緒にイエスの見張りをしていた人たちは、地震やいろいろの出来事を見て、非常に恐れ、「まことに、この人は神の子だつた」と言つた。